【談話】大飯原発４号機の停止で、再び原発稼働ゼロを迎えた９月 15 日にあたって

今こそ、原発ゼロの日本を！

2013 年９月 18 日
全日本教職員組合（全教）
書記長　今谷　賢二

１．９月 15 日、唯一稼働を続けていた大飯原発４号機が定期検査のため停止し、日本国内の原発は、ふたたび稼働ゼロになりました。これは、「原発ゼロ、再稼働反対」を求める国民の声と粘り強い全国各地での運動を背景にしたものです。全教は、「子どもたちを放射能被害・汚染から守る」ことを求め、原発ゼロを願う幅広い運動の一翼を担ってきた教職員組合として、今こそ、政府が原発からの撤退を決断し、すべての原発の廃炉に向けた具体的な歩みに踏み出すよう強く求めます。

２．東京電力福島第一原発の事故から２年半が経過した現在、福島原発では汚染水が漏れ、側溝を通じて海に流れ出していることが明らかになり、原子力規制委員会による原子力事故評価尺度は、「レベル１」（逸脱）から「レベル３」（重大な異常事象）に引き上げられました。また、福島原発事故によって、今日なお 15 万人を超える住民が県内外に避難を余儀なくされている現実もあります。安倍首相による「状況はコントロールされている」（国際オリンピック委員会総会）などとは到底言えない状況です。首相発言に対する福島などからの怒りの声は当然です。

　こうしたもとで、原発再稼働を強引に押しすすめたり、この実態を覆い隠しながら原発の輸出を強行したりすることは許されません。政府は、福島原発の現状を直視し、ただちに「収束宣言」を撤回し、政府の責任で汚染水対策など原発の事故収束作業をおこなうとともに、原発ゼロの政治決断をくだすべきです。

３．全教は、原発ゼロを求める全国の運動に合流するとともに、「ふくしまの子どもにのびのびタイムを」などのとりくみをすすめてきました。福島に暮らす子どもたちが、のびのびタイムに参加するなり、「土にさわっても大丈夫？」と問いかけたそうです。福島の現状を問われ、「思いっきり遊べない」とうつむいたといいます。これらの事実は、改めて福島原発事故の現状と被害の状況を浮き彫りにするとともに、子どもたちへの深刻な影響を実感させるものです。今こそ、私たちが掲げてきた「子どもたちを放射能被害・汚染から守る」ことの具体化が求められます。

　全教は、稼働原発がゼロになった今、原発から撤退し、即時ゼロ、自然エネルギーへの転換を求める世論を広げるとりくみをすすめ、各地で開かれる「原発ゼロ」集会など、一致点での共同を大切にしたとりくみに全力をあげる決意です。

以　上